

◆2024年度 中学入試 帰国生【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	97.9%	96.6%	整数・小数・分数を使った四則計算や、計算の工夫を利用する問題を出題。基本的な計算を正確にできるかどうかをねらいとしている。	小数・分数の四則計算の問題から、合否の差が出た。 日々計算練習に取り組み、基本的な計算力を身に着ける必要がある。
	(2)	87.5%	93.1%		
	(3)	87.5%	93.1%		
	(4)	68.8%	79.3%		
	(5)	81.3%	89.7%		
2	(1)①	91.7%	96.6%	割合の問題や、特殊算、平面図形などの小問集合。問題文から条件を読み取り、面積図などを使って基本的な計算ができるかどうかをねらいとしている。	「年齢算」「速さと比」「平面図形」の問題で合否の差が出た。
	(1)②	70.8%	89.7%		
	(2)①	89.6%	96.6%		
	(2)②	68.8%	82.8%		
	(3)①	91.7%	96.6%		
	(3)②	22.9%	20.7%		
	(4)①	62.5%	82.8%		
	(4)②	52.1%	72.4%		
	(5)①	62.5%	82.8%		
	(5)②	50.0%	69.0%		
	(6)①	64.6%	82.8%		
	(6)②	60.4%	79.3%		
3	(1)	52.1%	69.0%	立体図形において、底面積の比から高さを求める問題。具体的な値が分からない中で、正しい計算ができるかをねらいとしている。	大問3以降の問題の中で正答率が低かった問題。特に(2)は多くの受験生が苦戦したように思われる。
	(2)	39.6%	55.2%		
4	(1)	72.9%	86.2%	グラフから情報を読み取って計算する速さの問題。問題文とグラフを照らし合わせて、二人の間の道のりの変化を読み取れるかをねらいとしている。	全体的に合否の差が大きく出た問題。 特に、合格者の(1)の正答率はとても高い。
	(2)	47.9%	65.5%		
	(3)	45.8%	65.5%		
5	(1)	58.3%	65.5%	受験者の解答と点数から、テストの正答を推理する問題。複数のデータを比較することで、条件に合う答えを見つけることができるかをねらいとしている。	(2)で合否の差が特に出た問題。
	(2)	52.1%	69.0%		
	(3)	54.2%	62.1%		

◆2024年度 中学入試 帰国生【英語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
Part I	(1)	64.6%	69.0%	(1)基本イディオムに関する出題 (2)基本語句に関する出題 (3)～(5)基本文法に関する出題 語彙、文法の知識が問われた。	(2)(3)(4)に関しては、知識の差が明確に表れた結果となった。一方で、(5)のように一定のレベル以上の文法項目に関しては合格者の中でも解けていない受験生が目立った。
	(2)	43.8%	62.1%		
	(3)	41.7%	48.3%		
	(4)	58.3%	69.0%		
	(5)	29.2%	27.6%		
Part II	(1)	47.9%	58.6%	文法に即した英文を作ることができるかが問われた。日本語が与えられていない分、文法だけでなく語彙（イディオム）の知識もポイントとなっている。	複雑な語順の整序が問われる中で、自然な英文となっているかどうかを適切に判断できたかどうかで差が見受けられた。
	(2)	56.3%	58.6%		
	(3)	25.0%	37.9%		
Part III	(1)	54.2%	65.5%	簡単な対話における適切な受け答え補充。文脈をしっかりと捉えられるかが問われた。	会話表現中心の問題で、海外での経験の差が表れる結果となった。
	(2)	52.1%	65.5%		
	(3)	58.3%	72.4%		
Part IV	(1)	70.8%	79.3%	2人の人物がある映画について雑談をしているシーンの中で、その話の文脈を正確に読み取り、空所に適切な表現を補充できるかが問われた。	題材こそ小学生が読むのに相応しい内容であったが、使用されている単語のレベルがやや高かったことが例年に比べると正答率が伸び悩んだ結果につながっていると考えられる。
	(2)	50.0%	72.4%		
	(3)	52.1%	62.1%		
	(4)	68.8%	79.3%		
	(5)	77.1%	86.2%		
Part V	問1(i)	79.2%	82.8%	人が物を収集することを趣味とすることに関する記事を読み、答える問題。問1～問3は、設問に対して素早く文中から答えが埋もれている箇所を探し当てる力を問うており、問4は全体を把握する力が問われた 問5はこの記事を読んだ2人の人物の対話文からの出題となっており、やはり記事の内容理解が鍵となっている。	問1～問3までのように、本文に即した問題に関してはおおむね良好であった。一方で、本文の内容についての会話文を用いた応用問題については想定を下回る正答率となった。
	問1(ii)	56.3%	72.4%		
	問2	75.0%	89.7%		
	問3	79.2%	89.7%		
	問4(i)	52.1%	62.1%		
	問4(ii)	45.8%	55.2%		
Part VI	問1	16.7%	24.1%	高齢化社会の進展と、それに伴う老老介護に関する英文とグラフから内容を読みとる。資料を分析する力と内容理解力を問うた設問となっている。問3は下線部について日本語で説明する力が問われた。	問1のグラフを読み取る問題について「グラフから確実に読み取れる情報」を答えよという思考力が試される問題に戸惑った受験生が多かったと推測できる。和訳問題については想定通りの結果となった。
	問2(i)	70.8%	79.3%		
	問2(ii)	43.8%	48.3%		
	問3	25.5%	36.7%		
Part VII	①	30.6%	38.9%	与えられた条件の中で、文法や語彙の正確性に扱うことができる力が問われた。	新傾向の問題で、想定していたよりも正答率が低く、記述力のない受験生にはつらい結果となった。
	②	34.7%	47.8%		
Part VIII	-	45.6%	54.9%	海外経験の中でできた友人との思い出を論述する問題。正確性よりも、内容を重視した設問となっている。	全体的に書いている受験生と、そうでない受験生との開きが顕著であった。基本的な文法が破綻している受験生も一定数見受けられた。